怪談

伊藤貴晴　作

【登場人物】

男１

男２

男３

男１・男２・男３が座っている。

男１ 番町皿屋敷。これは江戸時代の話なんだ。ある偉い人のお屋敷に勤めている、お菊というう名前の下女がいた。ある日、お菊は、主人が大事にしてた高価なお皿の十枚のうち一枚を割っってしまった。お菊はたいそう怒られた。お菊は罰として中指を切り落とされ、蔵の中に閉じ込められた。しかしお菊は、夜中に蔵を抜け出し、裏の古井戸に身を投げて死んでしまったそうだ。それから、奇妙なことが起こるようになった。夜になると井戸の底から「一枚……二枚……」と、皿を数える女の声が聞こえるようになったらしい。そして、その後、主人の子供が生まれたのだが、中指がなかったという話だ。家は没落し、空き家になってからも、夜になると井戸から声が聞こえるという話だ。「一枚……二枚……三枚……四枚……五枚……六枚……七枚……八枚……九枚……やっぱり一枚足りない」〔※１〕

男２・男３は怖がる。

男２ 何で中指なかったの？

男１ お菊の呪いだよ

男３ 何で自殺しちゃったの？

男１ つらかったんだよ

男２ 何でお皿割っちゃったの？

男１ おっちょこちょいなんだよ

男３ その井戸はまだあるの？

男１ 知らないよ

男２ 怖いな、怪談

男３ ああ、怖いな

男１ そんなに怖かった？

男２ 怖かった

男１ 有名な話だよ

男２ そうなの？

男３ 知らない

男２ そっか、江戸時代って怖いんだな

男１ 別に江戸時代が怖いわけじゃないと思うけど

男３ でも江戸時代って妖怪とかいっぱいいたんだろ？

男１ そうなの？

男２ やっぱり怖いな、江戸時代

男３ 気を付けろよ

男１ 何にだよ

男２ 何だっけ？　題名

男１ 番町皿屋敷

男３ 番町皿屋敷

男２ 番長ってジャイアンみたいな奴だろ〔※２〕

男３ そうそう、その町を仕切ってるボスってことだろ

男１ 違うよ

男２ あ、で、皿屋敷っていう名前なんだ

男３ そういうことか

男１ 違うよ

男２と男３の寸劇が始まる。

男２ 俺がこの町を仕切ってる皿屋敷ってもんだ

男１ 何か始まった

男３ 今日からここに勤めさせていただきます、お菊と申します

男１ お前もやるの？

男２ 俺が大事にしてる皿を割りやがったらただじゃおかねえからな

男３ 分かりました。あっ、パリンパリンパリン。あーれー

男２ おい、てめえ、何してやがる

男１ 今、割れたの一枚じゃないよな？

男３ お皿を十枚全部割ってしまいました

男２ ふざけるなよ

男３ おっちょこちょいなもので

男１ おっちょこちょいにも程があるだろ

男２ 罰として中指を切り落としてやる

男３ やめてください、あー

男２ てめえは明日ぶっ殺してやる。覚悟しとけ

男３ つらい。死のう。えい

寸劇、終わり。

男２ お菊、かわいそうだな

男３ そうだな

男１ 今の寸劇は何なの？

男２ で、井戸から這い上がってくるあれになっちゃうんだろ？

男１ それ、貞子な〔※３〕

男３ 貞子の決め台詞って何だっけ？

男１ そんなのあったっけ？

男２ 「真実はいつもひとつ」

男１ それコナンな〔※４〕

男３ 「お前を殺す」

男１ 勝手に台詞作るなよ

男２ いやあ、怖かった

男３ 怖かったな

男１ じゃあ次。お前の番

男２ ああ、俺か。えっと、これは演劇部の友達から聞いた話なんだけど、今年、自主公演やったんだって。その日は朝から天気が悪くて、何か嫌な予感がするなって思ってたんだって。そういう予感って当たるんだよな。何かおかしいなって思いながら準備してたら、お客さんが一人も来なかったんだ

男３ 怖い

男２ 怖いだろ

男１ え、ちょっと待って

男２ 何？

男１ 怖い話ってそういうのじゃないだろ

男２ え？　何が？

男１ だってそれ怖い話じゃないよ

男２ 怖いだろ。お客さん一人も来なかったら

男１ そりゃ怖いけど

男２ 怖いよな？

男３ ああ、怖い

男１ 怖いけど、怪談じゃないだろ

男２ 怪談？

男１ お化けとか心霊現象とかそういう話

男２ あ、そういう話がいいの？

男１ そうだよ

男２ 言ってくれなきゃ分かんないよ

男１ 分かれよ。もういいよ。次、お前

男３ 俺か。じゃあ、「まんじゅうこわい」っていう話があるんだけど〔※５〕

男１ 待て待て待て待て

男３ 何？

男１ 落語だろ

男３ そうだよ

男１ 怖い話じゃないじゃん

男２ え、何？　どんな話？

男３ 昔、若い男たちが怖いものについて話してたんだ

寸劇が始まる。

男１ お前ら、怖いものってあるか？

男２ お化け

男１ 怖いな

男３ 蛇

男１ 怖いな

男２ 雷

男１ 怖いな

男３ お母さん

男１ 怖いな。みんな怖いものがたくさんあるんだな

男２ お前は？

男１ 俺か？　俺はな、自分の才能が怖い

間。

男１ 何か言えよ

男２ お前の根拠のない自信が怖い

男１ あ、地震は怖いな。地震、雷、火事、おやじ

男２ そっちじゃないんだけど

男３ 俺、まだ怖いものあるよ

男１ 何？

男３ まんじゅう

男１ まんじゅう？

男３ ああ、まんじゅう

男２ まんじゅうって、これか？

男３ うわ、まんじゅうだ

男１ ずいぶんたくさんあるな

男３ こっちに近付けるな

男２ これが怖いの？

男３ やめろ、やめてくれ

男１ 怖がってるな

男２ 大丈夫だって。ほら

男３ やめろよ。まんじゅうはダメなんだ

男１ おもしろいな

男２ おもしろい。ほら

男３ うわあ

男１と男２は男３にまんじゅうを近付ける。

男２ ほらほら

男３ うわあ、まんじゅうだ

男１ 食わせろ

男２ ほら、食えよ

男３ ああ、まんじゅうが口の中に。ひどい。もぐもぐ。うまい

男１ ん？

男２ ほらほらほらほら

男３ うわあ、もっと食わせてくれ。もぐもぐ

男１ ちょっと待て

男２ もっと食え

男３ こんなに食えるかな。もぐもぐ

男１ 待て

男２ 何？

男１ こいつ、まんじゅうが食いたくてこんなこと言ってるんじゃないか？

男３ バレたか。次は熱いお茶が怖い

男２ いい加減にしろ。どうもありがとうございました

寸劇、終わり。

男２ 怖くない

男１ だから怖くないって言っただろ

男３ おもしろかったろ

男２ おもしろかった

男１ ダメだよ。怖い話じゃないだろ

男３ じゃあ「時そば」っていう話もあるんだけど〔※６〕

男１ それも落語だろ

男３ お皿を数える貞子っていう妖怪がいて

男１ それ、さっきの俺の話だろ

寸劇が始まる。

男２ 一枚、二枚、三枚、四枚、五枚、六枚、七枚、八枚、九枚。やっぱり一枚足りない

男３ おう、貞子。どうした？

男２ あ、ジャイアン。実はお皿が足りなくて

男３ 数えてみろよ

男２ 一、二、三、四、五、六、七、八、九。ほら、一枚足りない

男３ もう一回数えてみな

男２ 何回数えたって一緒だよ

男３ いいから

男２ 一、二、三、四、五、六

男３ 今何時だ？

男２ 七時。八、九、十。あった

寸劇、終わり。

男３ こうして貞子は成仏したのでした。めでたしめでたし

男１ めでたいか？

男２ いい話だった

男３ そうだろ？

男１ メチャクチャだろ

男２ 次はどんな話？

男３ えっと、次は

男１ 落語はもういい

男２ じゃあ、トイレの貞子さん〔※７〕

男３ お前、貞子好きだな

男２ 口裂け貞子さん〔※８〕

男１ それ違う

男２ 阿部貞子〔※９〕

男１ もう何が何だか分からない

男２ 私、貞子。あなたの隣にいるの

男１ それ、メリーさんだろ〔※10〕

男３ メリーさんって何？

男２ 羊を捜す女の子

男１ 違うよ

男２ 羊が一匹、羊が二匹

男３ 眠くなってくるな

男２ 三匹、四匹、五匹、六匹、七匹、八匹、九匹、やっぱり一匹足りない

男３ 貞子かよ

男２ あ、貞子の名言思い出した

男３ 何？

男２ 「のび太さんのエッチ」〔※11〕

男１ それ、しずかちゃんだろ〔※12〕

男３ あー、どら焼き食べたいな

男２ ドラえもんかよ〔※13〕

男３ 違うよ、ジャイアンだよ

男１ 何言ってるんだよ

男３ おい、どら焼き出せ

男１ は？　何で？

男３ お前の物は俺の物

男１ いい加減にしろ

終わり。

【参考】

※１ 「番町皿屋敷」は江戸時代の怪談。

※２ 「ジャイアン」は漫画「ドラえもん」の登場人物。

※３ 「貞子」は鈴木光司の小説およびその映像化作品「リング」シリーズに登場する架空の人物。

※４ 「コナン」は漫画「名探偵コナン」の登場人物。

※５ 「まんじゅうこわい」は古典落語の演目のひとつ。

※６ 「時そば」は古典落語の演目のひとつ。

※７ 「トイレの花子さん」は日本の都市伝説。

※８ 「口裂け女」は日本の都市伝説。

※９ 「阿部定」は日本の芸妓、娼妓。阿部定事件の犯人として知られる。

※10 「メリーさんの電話」は日本の都市伝説。

※11 「のび太」は漫画「ドラえもん」の登場人物。

※12 「しずか」は漫画「ドラえもん」の登場人物。

※13 「ドラえもん」は漫画「ドラえもん」の登場人物。